

6章

立地適正化計画の目標値

本計画の理念となる『「多様な活動に挑戦できるまち・仙台」～複層的な都市機能の集積と安全・安心な居住環境の形成～』を実現するためには、基本方針に沿った各種施策を着実に進める必要があります。これらの施策の進捗状況による効果を確認し、今後の計画や施策の見直し等の参考とするため、基本方針ごとに評価指標を設定します。

評価指標は、本計画の基本方針を踏まえた居住機能や都市機能^{*}の誘導などによる効果を長期的に観測する観点から以下のとおり設定し、目標年度は計画期間の2042（令和24）年度とします。

なお、基本方針⑤に対する評価指標は、防災指針における目標値としても設定します。

表 6-1 基本方針ごとの評価指標

基本方針	指標	現況値	目標値
①世界とつながる最上級の都市空間を目指す都心の機能強化	都心における高次機能 ^{*1} 施設の新規竣工件数（件）	0 (2022（令和4）年度)	25 (2042（令和24）年度)
	②機能集約型の都市構造を支える各拠点の機能強化	広域拠点における地下鉄の年間利用者数（千人） 泉中央地区：9,630 長町地区：7,504 (2019（令和元）年度)	現状と同程度を維持 (2042（令和24）年度)
③質の高い公共交通を生かした都市機能の集積	仙台国際センター展示棟におけるイベント年間開催件数（回/年）	277 (2019（令和元）年度)	現状と同程度を維持 (2042（令和24）年度)
	④多様なライフスタイルに応じた持続可能で快適な居住環境の形成	JR在来線/地下鉄年間利用者数（百万人） JR：76 地下鉄：91 (2019（令和元）年度)	現状と同程度を維持 (2042（令和24）年度)
④多様なライフスタイルに応じた持続可能で快適な居住環境の形成	バス幹線区間、バス準幹線区間、フィーダー区間 [*] を運行するバスの年間利用者数（百万人）	47 (2019（令和元）年度)	現状と同程度を維持 (2042（令和24）年度)
	居住誘導区域の平均人口密度（人/ha）	61.7 (2015（平成27）年度)	現状と同程度を維持 (2042（令和24）年度)
①～④の基本方針を総括	住みやすいまちだと思ふ市民の割合（%） ^{*2}	90.9 (2022（令和4）年度)	93.0 (2042（令和24）年度)
⑤地域ごとの災害リスクを考慮した安全・安心な都市空間の形成	仙台市地域防災リーダーの配置数（名）	774 (2022（令和4）年度)	現状と同程度を維持 (2042（令和24）年度)
	指定避難所における地域版避難所運営マニュアルの作成率（%）	98.9 (2020（令和2）年度)	100.0 (2042（令和24）年度)

※1 本計画において設定する集積促進施設のうち、高次機能を含む施設（P.84参照）

※2 各年度の「仙台市市民意識調査」において、「仙台市は住みやすいと思いますか」との設問に対して「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」と回答した人の割合